

曹洞宗「總和会」の北信越管区

覚悟決め寺院改革を 檀家制度考えるシンポ

曹洞宗大本山總持寺系
宗政会派「總和会」の北
信越管区は9日、檀家制
度の在り方を考えるシン



シンポジウムで檀家制度をやめた経緯を
説明する橋本住職(左から2人目)

ポジウムを長野県松本市
内のホテルで開いた。檀
家制度を廃止し、会員制
にした橋本英樹・見性院
(埼玉県熊谷市)住職は
「檀家制度をやめても出
ていく檀家はいなかっ

た。覚悟を決めて思い切
った寺院改革が必要だ」
と強調した。北信越の同
宗僧侶約180人が参加
し、この問題に対する関
心の高さがうかがえた。
北信越でも近頃、イン

ターネットを使った僧侶
派遣が波及するなど、葬
儀や寺檀関係に変化の波
が押し寄せている。大会

長の伊東泰顕・長野県第
二支部長は「葬儀や墓じ
まいなどの様々な問題を
突き詰めていくと、結
局、檀家制度の問題にな
る。この問題を扱うのは
タブー視されてきたが、
もはやそんなことを言っ
ていられる状況ではな
い」と開催趣旨を説明し
た。

橋本住職は檀家制度を
廃止した理由を「変化が
激しい時代に対応してい
くためには住職に権限を
集中させ、トップダウン
で物事を進める必要があ
った。僧侶として当たり
前のことを当たり前にや
れば、会員は増えてい
く」と語った。
寺院コンサルタントの

薄井秀夫氏は「永代供養
などを行っている都会の
寺院は既に会員制だ。一
般の人たちにとって『檀
家』という言葉のイメージ

が悪いため、『檀家制
度をやめた』として見性
院は多くの支持を得たよ
うだが、結局、永代供養
を行っている寺院と変わ
りなく、言葉のマジック
ではないか」と指摘し
た。
浄土宗正覺寺副住職で
ジャーナリストの鵜飼秀
徳氏は、都会で宗旨を問
わない永代供養墓が増え
てきていることに注目。

「都会の寺では新規の檀
家はほぼゼロ。事実上、
檀家制度は崩壊してい
る」とし、最終的には僧
侶の資質が問題だと述べ
た。
薄井氏は「檀家制度が
あったからお寺が発展し

てきた。檀家制度はお寺
の生命線だが、それが一
般の人たちに『お寺側の
都合だ』と思われないよ
うな制度であればよい」
と締めくくった。
(赤坂史人)